

低コストで効率的な施業の推進に向けて

～現地に即した、列状間伐、コンテナ苗、森林作業道の効率的な組合せ～

十勝東部森林管理署

取組目標

- 列状間伐を行うことによる低コスト化の推進、かかり木の減少による労働安全の向上、及び安定的な木材供給に資する。
- 規格化されたコンテナ苗の活用、器具の改良、作業員の役割分担により、植付コストの低減を図る。
- 「作設指針」に基づき作設された森林作業道の検証を行い、簡易で安価で継続的に利用できる森林作業道の普及を目指す。

平成28年度の取り組み

地域への情報発信

5町合同「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」に参画し、低コスト路網作設指針の作成、指針に基づく既設路の手直し、造林事業時に継続的な森林作業道作設など、国有林の取り組みを説明しました。



また、国有林が所在せずこれまで関わりの薄かった自治体の実行管理推進チームに参画して、新たな関係を構築しました。



地域林政連絡会議や各自治体との意見交換の場において、地域における森林・林業の課題に向けて署で取り組んでいる、コンテナ苗の植栽、低コストで効率的な森林作業道の作設をテーマとした現地検討会開催についても情報共有を図りました。

<成果>

低コストで効率的な作業に向けた取り組みは民有林関係者の関心も高いため、普及と啓発に向けた現地検討会等の国有林の取り組みを継続するよう要望がある等、コスト意識が高まりました。

現地検討会による技術の普及

コンテナ苗の効率的な植栽

コンテナ苗の植栽コストの低減に向けて、現地検討会を開催し、植え穴を容易に掘ることができるとして近年注目されている「オーガ」（エンジン付き穴開けドリル）や、その作業方法（二人一組で穴開けと植栽を分担）を紹介、年々効率化に向けた改善が図られている状況を報告しました。



<成果>

器具の改良や作業の見直しにより、効率的な植栽が期待されるコンテナ植栽について理解が深まりました。



<今後>

コンテナ苗のメリット（扱いが容易、体に負担がかからない等）を継続的に紹介し、管内での更なる理解と普及を図ります。

森林作業道の作り方

作設後1年経過した森林作業道を検証する現地検討会を開催し、線形と水処理の工夫により、路体や路面に大きな損傷がない状況を紹介、地元のヤマに精通した事業者から森林作業道の説明をしてもらうなど工夫した検討会を行いました。



分散排水の工夫
(立木の根張りを利用)

<成果>

森林作業道については関心が高く、当署管内の民有林関係者に加え、作設前に開催した検討会と続けて参加した事業者や、十勝管内の事業者の参加もありました。地元のヤマに精通した事業者からの説明は、分かりやすいとの感想も聞かれ、繰り返し利用可能な森林作業道についての理解が深まりました。

<今後>

簡易で丈夫な森林作業道の作設と、安全で効率的な列状間伐を組み合わせた一貫作業システムの民有林への普及・啓発を行い、低コストで効率的な施業の推進に努めていきます。